2026 年 10 月 19 日に開催された
2026 年度第 4 回理事会(定例)の概要をお知らせします。

＜決議事項＞

●加盟団体規程の改定について

・加盟団体の義務や処分、その手続きなどの項目が盛り込まれていなかったため、他競技団体の水準や内容を参考に、新たに「加盟団体の使命」「義務」「処分」「弁明の機会」「損害賠償」の項目などを追記した。

・加盟・準加盟の整理を以下の通り行った。

➤一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ（加盟団体)、全国専門学校バレーボール連盟（準加盟団体）それぞれから脱退申請書が提出されたため脱退とすること。

➤ママさんバレーボール連盟について、過去の経緯も辿り、関係性を確認の上でホームページの掲載も含め削除すること。

➤今年度より 9 ブロックバレーボール連盟に対して、助成金を支給することから加盟団体の位置付けとした。

【決裁事項】

提案のとおり、加盟団体規程の改定について承認された。

●役員候補者選定規程の改定について

・役員選定規程については、項目ごとに纏まりがなく、会議体や設置日、確定日などがわかりにくい部分があったため、後に制定した評議員選定規程を基に以下のとおり整理を行った。

➤全体的な配置構成の変更を行い、日付の設定や名称の変更を行った。

➤委員会共通ルールの変更として、「委員の解任ルール」を定め、「書面決議」の実施も可能とした。

➤会長選定委員会が会長候補者を推薦できるケースをより明確化した。

➤期中に退任した際の手続きを明確化した。

➤監事・理事の再任クーリング期間を理事 2 期 4 年、監事 2 期 8 年と設定した。

➤スポーツガバナンスコードの外部有識者 25%、女性比率 40%を努力目標から原則達成目標と効力を強めた。

➤「協会職員を役員候補者として推薦できない」と定めていたものを、「役員就任時に退職する」と

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

いう内容に変更した。
➤会長選定委員会で委員長を務めた者を、引き続き、理事選定委員会での委員長とすることを定めた。
➤役員の解任は評議員の権限であるため、選定委員会では解任案と言い換えた。

【決裁事項】
提案のとおり、役員選定規程の改定について承認された。
なお、本規程を基に 2027 年度会長・理事改選プロセスを実施していく。

●会長候補者選定委員会の設置と委員の選任について

・2027 年度の理事改選に向けて、会長候補者選定委員会の設置と委員 7 名（評議員／加盟団体所属 2 名、理事／外部有識者 2 名、監事 1 名、事務局長 1 名、外部委員 1 名）が各属性から選出された。
・任期：2026 年 10 月 19 日～2029 年 6 月の定時評議員会（選定した役員の在任期間）終了時まで。

【決裁事項】
提案のとおり、会長候補者選定委員会の設置と委員の選任について承認された。

●事務局規程の改定について

・Ｖリーグ事務局にて立ち上げ準備を進めてきた「日本バレーボールリーグ 2026-2027 V.LEAGUE」が 11 月 7 日に開幕する。これまでは事務局規程にある競技普及グループの所管業務の中に、「本協会が主催するバレーボールの国内競技大会の開催」についての項目があり、これに基づき準備を進めてきたが、大会が本格的にスタートすることに伴い、Ｖリーグ事務局の存在をより明確に位置付けて、活動を活発化していきたい。そのため所管業務の 1 つに「Ｖリーグ事務局業務」を競技普及グループ内に明記したい。

【決裁事項】
提案のとおり、事務局規程の改定について承認された。

●組織の一部変更ならびに重要な使用人の選任および担務変更について

・組織については、理事の意見も参考にしながら、都度点検をして必要な見直を実施していきたい。通常は 4 月や理事改選のタイミングに揃えているが、必要な組織変更や人事に関しては先行して行いたいという考えのもと、今回は 11 月 1 日付で一部変更することについて提案したい。
・イベントプロデュースプロジェクト事務局の常設化
国内外の大会において横串を指し、情報を一元管理して、各部署と連携しながら大会運営に当たっていくことを目的にプロジェクトが立ち上がっていたが、管理体制が不明確な点や、一部機能していな

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

いとの指摘もあった。そのため、リーダーとスタッフを専任で配属し、予算管理も行う体制とし、新たに事務局として独立させ常設化したい。

・重要な使用人の選任および担務変更について
[重要な使用人の担当職務の変更]
村上 成司　　旧：　事務局長　兼　業務推進グループシニアダイレクター
　　新：　事務局長
　　※担当の 100 周年記念事業プロジェクトリーダに変更なし
[重要な使用人の選任]
照沼佑介　　旧：　企画推進チームダイレクター
　　新:　業務推進グループシニアダイレクター（新任）兼　企画推進チームダイレクター

・事務局長には来年に迫っている 100 周年記念事業プロジェクトに専念いただく。
・業務推進グループにある企画推進チームを企画推進と人事総務の 2 チームにわけて、企画機能をより明確にしていく組織変更を検討している。

【決裁事項】
提案のとおり、組織の一部変更ならびに重要な使用人の選任および担務変更について承認された。

●役員賠償責任保険の継続更新について
・昨年、理事会において役員賠償責任保険の加入について承認を得ているが、11 月 1 日をもって満期を迎える。1 年更新となるため、理事会の中で継続更新について承認をいただきたい。
・資産総額が少し増えたため、その分保険料が多少増額しているが、前年度からのプラン変更はない。
・追加の保険料もなく、今年度の契約から評議員も対象に含まれた点が変更となる。

【決裁事項】
提案のとおり、役員賠償責任保険の更新について承認された。

●ガバナンスコードの自己説明について
・今年度はガバナンスコードの自己公表の年となるため、10 月末日までにホームページ上で公開し報告しなければならない。
・昨年度は 4 年に 1 度の適合性審査を受けており、43 項目すべて A 評価であった。
・今年度の変更点については以下の通り。
➤規程の全体見直しとツリー化の実施状況

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

➤ガバナンス強化策の策定に伴う規程・部会の追加
➤評議員選定結果、外部比率・女性比率の達成状況
➤コンプライアンス研修の実施状況
➤不祥事案件の調査体制の報告等

【決裁事項】
内容については、一部理事からの指摘事項を反映させることを前提に、ガバナンスコードの自己説明について承認された。

●特定費用準備資金等取扱規程の改定について
●経理規程の改定について

・今年度より公益会計基準が変わり、その移行に合わせて取り扱いや名称の変更に伴い、特定費用準備資金等取扱規程」を「公益充実資金等取扱規程」への変更ならびに、経理規程における該当箇所の改定を行いたい。
➤「特定費用準備資金」が「公益充実資金」への名称変更
➤公益法人特有の内容で、「基本財産」「特定資産」の記述がなくなり、「有形固定資産」「無形固定資産」「その他固定資産」へ変更
➤「正味財産増減計算書」を「活動計算書」へ変更
・会計基準の変更について
➤収支相償原則が中期的収支均衡への見直し
➤遊休財産規制が使途不特定財産規制への見直し
➤貸借対照表の変更
➤正味財産増減計算書が活動計算書へ名称変更
・定款については、当然読み替えるものとし、他の変更手続きが発生したタイミングで一緒に反映させる。

【決裁事項】
提案のとおり、特定費用準備資金等取扱規程および経理規程の改定について承認された。

●日本代表男女チームへの報奨金支給について

・2026 年の国際マッチシーズン中に、男女フル代表が国際親善試合や紅白戦などの活動の中でファンサービスを行った。選手の多大な協力に対する謝礼という趣旨のもとで報奨金を支給したい。

[男子選手　計 29 名]
・A 代表　対象イベント（計集客 14,500 席／報酬対象大会）

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

①沖縄大会(vs CAN) ④有明大会(vs BRA)
・B 代表　対象イベント（計集客 4,900 席）
②岩手大会(vs CUB) ③とどろき大会(vs ITA)
※何れもファンサービスがあったイベントが対象

[女子選手　計 27 名]
①ミズノマッチ 千葉
※ミズノマッチ 東京ではファンサービスの実施なし。

【決裁事項】
提案のとおり、日本代表男女チームへの報奨金支給について承認された。
なお、理事・監事からはファンサービスに関する報奨金の支給基準については明確にする必要があり、テーブルなどを今後定めて、透明性をもって管理していくべきとの意見があった。

●日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程の改定について(ビーチ)
・以前、報奨金規程の改定時に、受け取った賞金については、獲得賞金の 5 パーセントを差し引いて、日本バレーボール協会が行うプロモーション事業に充てていくことを定めた。しかしながら、ビーチバレーボールについては状況がインドアとは若干異なるため、「四半期ごとの支給とすること」、「配」分は賞金を獲得した選手 2 名で配分案を策定し、業務執行理事会で決定していくこと」などを実状に合わせた形に修正させていただきたい。

【決裁事項】
提案のとおり、日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程の改定について承認された。

●元日本代表選手の処分決定について（永田委員長説明）
・対象者は日本代表の合宿期間中に逮捕され、既に判決が下っている元日本代表選手について、コンプライアンス委員会で審議された処分案を理事会に上程したところ、処分内容が決定した。

【決裁事項】
提案のとおり、元日本代表選手の処分の決定が承認された。

＜報告事項＞
●2026 年度第 2 四半期職務執行報告書
法令および理事会運営規程に基づき、2026 年度第 2 四半期の職務執行報告が会長、専務理事、業務執行理事、グループシニアダイレクターより行われた。

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

●中期経営計画進捗管理委員会の経過報告について（石塚委員長説明）

今年度から新しく、進捗確認のフォーマットを変更した。7 月の理事会時点でまだ間に合っておらず、そのあと 8 月に遅ればせながら第 1 四半期の確認会を行い、理事会宛てに新フォーマットでの報告は今回初めてとなる。様式として進捗と進捗計画の整理を行い、2028 年まで年間どのようなスケジュールで、中期を実行していくかを四半期ごとにブレイクダウンを行う表を取り入れたことや、実際に責任者と担当者が様式の中でも明記するかたちとした。四半期ごとに取り組む内容を決めて、該当期の抜粋した内容をもとに進捗管理委員会に各リーダーから報告していただき、その達成状況を委員会としてもウォッチしていく流れに改めた。その中で理事会に報告するのは、達成できなかった積み残しや課題を重点的にピックアップして報告している。

○未達目標
【代表強化／バレーボール】
・施策③：SVL と一体になった競技力向上の推進　→　KPI 評価　△
・施策④：パフォーマンスセンターの設立　→　KPI 評価　△

【代表強化／ビーチバレーボール】
・施策②：強い日本代表チーム作り　→　KPI 評価　X

【競技普及】
・施策①：上級資格（コーチ 3／4）の受講機会の拡充　→　KPI 評価　X
・施策②：コーチ資格をベンチ入り要件からクラブ指導・運営用件にレベルアップ　→　KPI 評価　X

【マーケティング】
・施策①：新規協賛企業の獲得　→　KPI 評価　X
・施策②：ファンコミュニケーションのモバイルソリューションの導入　→　KPI 評価　X
・施策③：映像国際配信　→　KPI 評価　X

【社会貢献】
・施策①：大会等を活用したバレーボールの特性を活かした社会貢献活動　→　KPI 評価　X
・施策②：デフバレー／シッティングバレーとのより深い関係性を築く　→　KPI 評価　X

【組織運営】
・施策①：ガバナンスコード適合性の継続的な推進 →KPI 評価　△
・施策②：行動規範「JAPAN バレーボール WAY」の浸透、遵守 →KPI 評価　×
・施策③：要員計画の立案および計画にもとづく人財の採用と育成制度の確立 →KPI 評価　△

全体を通して、本来やるべきことははっきりしていると思うが、その準備の段階で進捗管理委員会がいることを理解している。フォーマットを改善して、ようやく 3 年目を迎えるが、色々見えるようになってきたことで、各シニアダイレクターも進捗確認をご自身で管理しやすくなっているかと思っている。実際、委員会での会議時間も短縮出来ている。本来は業務執行側で自立的に管理していただく

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

のが本来の経営であるため、近い将来は協会の中でしっかり回し続けていって欲しい。

●功労者Ⅱ授賞者報告

◯第 17 期（2026 年度）第 2 回功労者Ⅱ表彰授賞者

・仲佐久子　島根県バレーボール協会　副会長

●評議員の（3 親等）利益相反確認結果について（永田委員長説明）

コンプライアンス委員会では 6 月 12 日に就任した評議員（重任 9 名、新任 16 名）の利益相反に関する状況について確認を行った。なお、評議員推薦時に 2 親等であった調査範囲を、就任後は 3 親等まで拡大している。結果として、提出された回答フォームに記載されている事項については、正しく示しているものと認め、利益相反に該当するあるいは該当し得る項目が存在するものの、委員会として問題はない旨で判断したことを理事会に報告をさせていただく。

●2026 年度 2 四半期予算進捗について

着地見込

収益：4,444,212 千円（予算差+207,958 千円）

費用：4,735,819 千円（予算差△3,185 千円）

損益：▲288,422 千円（予算差+211,143 千円）

確定数字ではないが、上期に今後の予想を加えた形で着地見込みとしている。年間の収益については現在 44 億 4,400 万円相当で、予算費プラスの 2 億 8,000 万円ほどを見込んでいる。費用については、予算どおり 47 億円となり、最終的な着地は約 2 億 8,800 万円のマイナスとなる。ただし、これは 2 億円の収支が改善しており、当初の予算で▲4 億 8,000 万円については、特定資金の取り崩しで均衡に持っていたが、そこから予算については、損益ベースで 2 億円ほど改善する見込みとなっている。

ハイパフォーマンス部門による遠征費の未使用や節約による支出減であった点、マーケティング部門による親善試合・紅白戦などによる入場料収入、グッズ販売、肖像権使用による収入増となった点が全体的な主な要因となっている。

●日本代表インドア・ビーチの活動報告について

➤インドア

1 年前から技術委員会が代表強化・育成・指導者養成を 3 本柱で積極的に活動を進めてきた。26 年の目標として、男女ともにアジア選手権で優勝を掲げていたが、シニア男子は優勝し、ロス五輪の出場権を獲得できた。シニア女子に関しては、出場権持ち越しとなり、来年のワールドカップでの出場権獲得にとどまった。

・27 年の目標として、シニア男子は、オリンピックの本番に向けての環境整備を行う。シニア女子については、ワールドカップで五輪切符を確実に獲得することを掲げていく。

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

・アンダーエイジカテゴリーには若手の有望選手もいるため、国際経験を積ませて個々の力も上げていきたい。
・インテリジェンスハブを神戸に設けることにより、選手一人ひとりと向き合いながら、データを一元管理し、世界強豪との比較も行い、個人のパフォーマンスを高めていきたい。
・今年度は JVA 公認として、アナリストライセンスの制度化を行った。

➤ビーチ
・アジア選手権において、男子はベスト 8 にも入れなかったが、女子については 3 位に入ることができた。
・名古屋アジア大会においては、水町・黒澤ペアがベスト 3 位に入る久々の快挙となった。
・アンダーカテゴリーについては、U18 男子、柏木・杉浦ペアが過去最高順位となる第 5 位となった。
・インドア・ビーチを両立するプレイヤーが出てきているため、協会としてもしっかりと支援できる体制としていきたい。
・日本代表を率いているスティーブ監督が FIVB のエンパワーメントプログラムの再申請の承認が通り、新たに専属サポートチームを設置なども行っており、本格的なサポートを継続していきたい。
・顕在化した課題点については、今後に向けて解決に取り組んでいく。

●100 周年記念事業プロジェクトの進捗報告

100 周年のステアリングコミッティもしくは JVA の事務局内でのそれぞれの施策について、準備・検討を始めている。

①ロゴやステートメントを通じて、100 周年は次の 100 年の出発点であるという構想を中心に考えていきたい。また、SV リーグとの連携等についても、しっかり検討すべき。
②記念式典にも関わるが、過去の歴史をどのように扱っていくか、現在の選手の活躍、バレーボール人気を踏まえた掲載が必要になる。
③100 周年事業の文化的意義について、事業のコンセプトを具体策に落とし込み、バレーボールの文化的価値を社会に示す重要性も考えていく。
④競技を超えた普及施策と発信アイデア。
⑤各施策の進捗として、記念ロゴの発表、ワーキンググループの定期報告の実施、チャレンジシリーズ、神戸のトレーニングセンター、バレーボールウィーク、教育プログラム、全国キャラバン、協賛、記念グッズ、記念式典、地域連携、情報発信については今後確認していく。加えて、記念冊子については英語バージョンも作っていくことを考えている。
⑥教育プログラムと全国キャラバンを組み合わせて進めていく。
⑦100 周年活動における社会貢献を未来貢献へつないでいくことを議論している。
※その他、100 周年記念式典の予定、100th スローガン、ステートメントおよびロゴの紹介が行われた。

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD

●新強化拠点の進捗報告について

10 月 16 日に、予約契約を締結した。これは、7 月 1 日から改修後の施設を使用するための賃貸契約である。この契約の締結を経て改修工事に着手している。完成までは残り 8 か月ほどあるが、この期間の中で、実際の賃料の中でどこまで改修するのか、費用を抑えて我々のニーズをどこまで応えられるのかをしっかり詰めていくという期間となっている。そういった意味で、先方の考えと我々の考えがまだ完全に一致してないところもあり、費用については、我々がもっと抑えられるのではないかと先方側で動いていただいている。投資額の中で何ができるかは、これから詰めていく話とはなるが、契約条件の交渉が難航しているため、長期化する可能性はある。

●コンプライアンス処分決定報告について（永田委員長説明）

本日の報告については、JSPO 資格を持っている対象者の処分案件であり、JSPO で決定した 7 件分となっている。傾向的には、ハラスメントもあるが、暴言・暴力が統計的にも非常に多い分野となっていることが課題になっている。JVA から JSPO に上げる期間の短縮については、一歩ずつではあるが改善傾向にある。JSPO に上げた後の JSPO の判断については、半年から 1 年ほどの時差があり、JVA で提案した処分内容と JSPO での処分決定内容を比較すると、JSPO のほうが多少厳しいかたちとなっている。しかしながら、案件によっては厳し過ぎることにより仲裁に戻るようなこともないため、データで件数を蓄積することによって、目線合わせをきちんと整えていきたいと考えている。次回の理事会では、分析も含めて報告させていただきたい。

●特別調査委員会の進捗報告について

事前説明会での説明時点からの進捗報告について、スケジュールの共有が行われた。

以上

公益財団法人日本バレーボール協会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-8 ダヴィンチ千駄ヶ谷内
www.jva.or.jp

PASS IT FORWARD